



# 砂山地域まちづくり協議会 令和2年度通常総会議案資料

みんなで話し合い、みんなで取り組み、支え合う集落・地域を目指して



令和2年度  
砂山地域まちづくり協議会通常総会議案資料 目次

- 議第1号 令和元年度事業報告及び収支決算の承認について・・・1
- 議第2号 令和2年度事業計画(案)及び収支予算(案)の承認について・・・11
- 議第3号 砂山地域まちづくり協議会役員の承認について・・・15
- 第3期砂山地域まちづくり計画【平成30年度～令和2年度】・・・16
- 砂山地域まちづくり協議会組織構成・・・25
- 令和2年度 役員・代議員名簿・・・26
- 砂山地域まちづくり協議会規約・・・27

議第1号

令和元年度事業報告及び収支決算の承認について

令和元年度事業報告及び収支決算について、監査報告書を付して別紙により承認を求めます。

令和2年4月1日 提出

砂山地域まちづくり協議会 会長 瀬賀秀雄

# 令和元年度事業報告

区 分	事業名 取組項目	実施時期	対象・人員	取組効果・課題等
地域の課題解決、地域振興及び住民交流に関すること	(1) 集落町内会事業の取り組み 砂山地域では、集落活動をまちづくりの基本と位置づけ、集落で話し合いながら、集落の伝統行事や文化を守り、地域のつながりやふれあいを深めていくことを目的として、例年参加する人数が減少傾向にあり、子ども達が少ない集落もあるなど課題はありますが、解決策を模索しながら集落事業に取り組みました。			
	1 区民ふれあい大会(牛屋)	11月10日 (日)	集 落 全 体 150名	今年で14回目の開催となりました。集落の公会堂を会場に、午前中はチーム対抗の競技大会、午後からはカラオケ大会と懇親会で盛り上がりました。区民(子供からお年寄りまで)の健康増進を目的に交流することを通して、区民の団結力が一層強化され、活性化を図ることができました。
	2 納涼祭及び盆踊り(福田)	8月15日 (日)	集落全体 80名	区民の親睦を深めることを目的に毎年開催している夏の交流事業です。恒例のレクリエーションやバーベキュー大会を実施しましたが、天候不良により踊りはできませんでした。しかし、子ども達が多く参加してくれて賑わいました。
	3 伝統行事の維持活動(北新保)	8月6日(日)	区、小中学生・PTA 50名	伝統行事の七夕屋台の飾りつけ作成と集落内引き回しを行うため、PTAと連携し、子どもたちに参加してもらい伝統行事を継承する取組を行いました。また、台車用リヤカーの老朽化により台車を更新し、連結加工が必要なため、区民の協力により加工作業を合わせて行いました。

区分	事業名 取組項目	実施時期	対象・人員	取組効果・課題等
地域の課題解決、地域振興及び住民交流に関すること	4 赤松区周辺環境整備と懇談会（赤松）	8月25日 （日）	集落全体 32名	赤松集落では、平成24年から集落の懇談会を始め、平成26年から環境整備に取り組んでいます。 集落の恒例行事として定着し、清掃作業の後には懇親会で親睦を深めました。
	5 支えあいの地域・ボランティア体験事業（長松）	10月14日 （月）	集落全体 29名	毎年参加していた栗島クリーンアップ作戦が悪天候で中止となったため、10月6日開催のお幕場クリーン作戦事業に集落として参加しました。参加を通じて支えあいの精神が養われた。慰労を兼ねた親睦会では親睦を深めることができました。
	6 塩谷元気事業	①8月14日 （水）  ②10月13日 （日）  ③7月17日 （水）  ④9月1日 （日）	—  —  29名参加  96名参加	①【盆踊り】 猛暑により熱中症の危険があったため、事業中止  ②【国民文化祭・北前船の町屋散策】 台風19号の接近により中止  ③【健康講座】 新発田ヤクルト販売(株)にご協力いただき、「腸のはたらき」について講話していただきました。賑やかで有意義な講座を開催することができました。  ④【防災講座】 村上市防災避難訓練に合わせて開催し、神林支所地域福祉室の加藤室長より防災に関する講話を開催しました。

区 分	事業名 取組項目	実施時期	対象・人員	取組効果・課題等
	<p>(2) 砂山地域事業の取り組み</p> <p>砂山地域の共通の財産である「お幕場」や「大池」を保全する取り組みや、6集落が連携した防災の取組を通して、住民同士の一体感を深めることができました。また、今年度末をもって閉校となる砂山小学校児童全員に対し記念品を贈呈し、閉校記念事業実行委員会への協力し、併せて今年度開校した神林中学校に対し神林地地区まちづくり協議会で連携事業を行いました。</p>			
	1 お幕場クリーン作戦	10月6日 (日) ※9月29日の予定だったが、悪天候のため延期して実施	108名	砂山地域の大切な財産であるお幕場の美しい松林を守っていかうと、平成27年度から清掃活動(松葉掻き、草刈り等)を始め、今回で5年目となりました。毎年継続して取り組んできたことで、広大な松林のほんの一部ではありますが、「白砂青松」の風景がよみがえってきました。
	2 花いっぱい事業	植栽日 5月19日 (日) 管理作業 6月～8月	シバザクラ苗の植栽及び管理作業 94名	冬には白鳥が訪れて賑わう大池を、冬以外の季節にも訪れてもらえるよう、今回は出島にシバザクラの苗(1,000株)を植栽しました。植栽後は、北新保集落の皆さんと作業日を分担しながら、早朝の草取り作業等を行い、大切に育ててきました。
	3 地域連携事業(自主防災組織連絡会議の取組)	7月11日 (木)	自主防災組織役員等 11名	①研修視察 ・日頃からの備えについて (長岡震災アーカイブセンター) (おちや震災ミュージアム)
11月12日 (火)		自主防災組織役員等 23名	①報告事項 ・研修視察 ・非常時用備品の購入 ②集落の自主防災組織の取組報告 ③合同防災訓練研修について	
11月24日 (日)		自主防災組織役員等 40名	①防災ゲーム クロスロード ②炊き出し訓練 アイラップを使用したご飯づくり	

区 分	事業名 取組項目	実施時期	対象・人員	取組効果・課題等
	4 小中学校との連携事業	9月7日（日）  10月26日（土）  令和2年1月7日（火）	学校関係者と生徒及び保護者 ほか  砂山小学校児童  地域住民 ほか	神林中学校開校記念事業として、体育祭終了後、生徒全員で人文字「WA」を作り、バルーンリリースを実施しました。併せて記念となるクリアファイル作成し、学校関係者に配布しました。  62年の幕を閉じる砂山小学校児童全員に対し、閉校記念品として鉛筆を贈呈しました。  砂山小学校閉校記念事業実行委員会の事業に協力し、体育館脇の屋外ステージにイルミネーションが設置されました。
	(3) 研修会の開催 人口減少や少子高齢化を見据え、支え合う地域づくりのために生活支援協議体との共催によりフォーラムを開催しました。また、小中学校統合後のまちづくり活動について話し合うことを目的に、5地域合同による研修会を開催しました。			
	1 まちづくり活動推進研修	2月2日（日）	神林地区5地域運営委員	小学校の統合を控え、協議会同士の連携を密にすると共に、統合後の連携事業などについて、5地域合同の研修会を開催した。 ・学校統合後におけるまちづくり協議会との連携事業について ・「関係人口創出・拡大事業」について ・SNS「インスタグラム」操作説明会について
	(4) 神林地区敬老会への参画 神林地区では、敬老会を、世代間交流を図り、支え合いの意識を育む事業として位置づけ、5地域の合同開催により継続して取り組んでいます。			
	1 神林地区敬老会への参画	6月15日（土）	砂山地域対象者438名、参加者132名	参加率30.1%（神林平均31.5%）各集落の協力により、敬老会への参加者の支援を行うことができました。

## 役員会開催状況

構成;牛屋2名、福田2名、北新保2名、長松2名、赤松2名、塩谷5名、合計15名

回数	日付	内容	出席
第1回	平成31年4月16日	年間スケジュール、本年度の実施事業について	13名
第2回	令和元年6月4日	地域防災活動の推進について	13名
第3回	令和元年6月28日	発電機購入にかかる仕様変更に伴う書面協議	-
第4回	令和元年11月5日	お幕場クリーン作戦、閉校記念式典について、合同防災訓練研修について	12名
第5回	令和2年1月28日	平林中学校跡地利活用について、地域連携事業について、令和元年度事業報告案、収支決算見込みについて	13名
第6回	令和2年2月25日	小・中学校連携事業について、令和2年度事業計画案及び予算案について	13名
第7回	令和2年3月17日	新型コロナウイルス感染拡大防止により中止	-

## お幕場イベント検討部会開催状況

構成;砂山地域まちづくり協議会運営委員7名、集落選出部会員8名 合計15名

回数	日付	内容	出席
第1回	令和元年9月3日	部会長・副部会長の選出、お幕場イベントの内容について	12名
第2回	令和元年9月24日	イベントの内容検討、役割担当について	14名
	令和元年10月6日	イベント実施日(参加者108名)	14名
第3回	令和元年10月23日	今年度事業の実績報告、振り返り及び次年度の取組について	14名

## 花いっぱい事業検討部会開催状況

構成;砂山地域まちづくり協議会運営委員4名、集落選出部会員10名 合計14名

回数	日付	内容	出席
第1回	平成31年4月23日	部会長・副部会長の選出、花いっぱいイベントの内容について	14名
	令和元年5月19日	花いっぱい事業実施日(94名参加)	14名
第2回	令和元年5月22日	今年度事業の実績及び今後の管理について	8名
草刈り作業 令和元年7月7日、8月4日 2回 延べ41名			
第3回	令和元年10月30日	今年度事業の実績報告、振り返り及び次年度の取組について	9名

## 地域連携事業(防災事業)実施状況

参加者:砂山地域各集落自主防災組織役員、防災士 ほか

回数	日付	内容	出席
第1回	令和元年7月11日	研修視察実施 ・日頃からの備えについて学ぶ 長岡震災アーカイブセンター(きおくみらい) おぢや震災ミュージアム(そなえ館)	11名
第2回	令和元年11月12日	砂山地域自主防災組織連絡会議 ・今年度の各集落の活動報告状況 ・今後の取組・課題などを確認	23名
第3回	令和元年11月24日	砂山地域合同防災訓練 ・防災ゲーム クロスロード、アイラップを活用したご飯づくり	40名

## 神林地区まちづくり協議会連絡会議

構成: 神林地区5地域まちづくり協議会会長5名、副会長5名 合計10名

回数	日付	内容	出席
第1回	令和元年6月11日	「関係人口創出・拡大事業」モデル事業について 神林中学校開校記念事業の協力について	1名(6名)
第2回	令和元年8月8日	(1)「関係人口創出・拡大事業」モデル事業について (2)学校統合後の連携及び協議会体制等について (3)神林中学校開校記念事業の協力について (4)平林・神納小学校開校記念事業の協力について	2名(8名)
	令和元年9月7日	神林中学校開校記念事業体育祭 バルーンリリースの実施、記念クリアファイル作成	1名(会長)
第3回	令和2年1月24日	(1)学校統合後の連携及び協議会体制等について (2)関係人口創出・拡大事業について	1名(5名)

## 神林地区まちづくり協議会運営委員合同研修会

参加者: 神林地区5地域まちづくり協議会運営委員など

回数	日付	内容	出席
第1回	令和2年2月2日	(1)学校統合後の連携及び協議会体制等について (2)関係人口創出・拡大事業について	5名

## 地域まちづくり組織 ~第1回まちづくり円卓会議~

参加者: 村上地域内のまちづくり組織関係者、行政職員など

回数	日付	内容	出席
第1回	令和元年8月3日	まちづくり協議会が抱える課題や今後必要となる支援の仕組みについてざっくばらんに話し合う意見交換会	1名(会長)

## 関係人口創出・拡大事業

参加者: まちづくり組織関係者、神林地区活性化協議会、行政職員など

回数	日付	内容	出席
	令和元年8月24日	関係人口スタートアップ研修 講演:「関係人口の概念とこれからの地域づくり」 講師: 徳島大学 准教授 田口太郎 氏	1名(会長)
第1回	令和元年9月28日	関係人口創出に伴うワークショップ 「関係人口創出について」 講師: ファシリテーターNPO法人 都岐沙羅パートナーズセンター 斎藤主悦 氏	2名(正副会長)
第2回	令和元年12月1日	関係人口創出に伴うワークショップ 「関係人口創出のためのアイデアを磨こう」 講師: ファシリテーターNPO法人 都岐沙羅パートナーズセンター 斎藤主悦 氏	1名(会長)
第3回	令和元年12月18日	関係人口創出に伴うワークショップ 「R2年度にどれを実施するか」 講師: ファシリテーターNPO法人 都岐沙羅パートナーズセンター 斎藤主悦 氏 Instagram講座 「#かみはやしで魅力を発信しよう」 講師: 村上市地域おこし協力隊 臥牛山隊員、集落支援員	2名(正副会長)

## 持続可能な明日への防災事業～生き延びる力自助共助の必要性～

参加者:村上地域内のまちづくり組織関係者、行政職員など

回数	日付	内容	出席
	令和元年7月27日	アクティブディスカッション 陸上自衛隊第30普通科連隊における災害派遣活動報告 村上市消防本部 応急処置・搬送法について 村上市保健医療課健康支援室 災害時の食の備え 各専門職によるブース体験(展示・相談・PR)など	1名(会長)

## 平林中学校利活用検討会議

参加者:関係するまちづくり協議会長、平林地区区長会、行政職員

回数	日付	内容	出席
第1回	令和元年12月27日	平林小学校、平林中学校跡地利活用について	1名(会長)

## 神林地区内各種懇談会

参加者:各まちづくり協議会長、各小中学校及びPTA、文化協会、青少年育成市民会議  
神林中学校区郷育会議、商工会青年部、かみはやし農協、NPO法人希楽々、公民館

回数	日付	内容	出席
	令和2年2月21日	「学校統合後の地域づくりと郷育の推進」 話題提供:NPO法人おたすけさんぽく代表理事 加藤英人氏 ワークショップ・各団体の情報交換	1名(会長)

## 神林地区生活支援協議体(神林地区ご近所ささえ～る隊)会議

構成:各まちづくり協議会会長、NPO法人希楽々、塩谷基地、民生委員、社会福祉協議会等

回数	日付	内容	出席
第1回	令和元年5月9日	昨年度事業の検証、今年度事業案について	1名(会長)
第2回	令和元年7月10日	ささえあいカタログの作成について	1名(会長)
第3回	令和元年11月13日	ささえあいカタログ案について、消防団等のワークショップの計画について	1名(会長)
第4回	令和2年2月13日	ささえあいカタログについて、来年度事業計画について	1名(会長)

## 互近所ささえ～る隊合同研修会

構成:各地区生活支援協議体、コーディネーターほか

回数	日付	内容	出席
第1回	令和2年2月17日	互近所ささえ～る隊活動報告 「今年度の活動状況と来年度の活動予定について」	1名(会長)

## 令和元年度 収支決算

### 収 入

(単位：円)

区 分	予算額	補正額	予算現計額	決算額	比較額	説 明
<b>1 地域まちづくり交付金</b>	<b>1,722,000</b>	<b>0</b>	<b>1,722,000</b>	<b>1,722,000</b>	<b>0</b>	村上市からの交付金
<b>2 繰越金</b>	<b>334,603</b>	<b>0</b>	<b>334,603</b>	<b>334,603</b>	<b>0</b>	前年度繰越金
<b>3 諸収入</b>	<b>397</b>	<b>0</b>	<b>397</b>	<b>6</b>	<b>▲ 391</b>	預金利子等
<b>合 計</b>	<b>2,057,000</b>		<b>2,057,000</b>	<b>2,056,609</b>	<b>▲ 391</b>	

### 支 出

(単位：円)

区 分	本年度	流用額	予算現計額	決算額	比較額	説 明
<b>1 地域振興交流経費</b>	<b>620,000</b>	<b>0</b>	<b>620,000</b>	<b>556,359</b>	<b>63,641</b>	
1(牛屋)	120,000	0	120,000	120,000	0	区民ふれあい大会 125,387円
2(福田)	80,000	0	80,000	80,000	0	納涼祭、盆踊り 90,616円
3(北新保)	80,000	0	80,000	80,000	0	七夕屋台台車改修 99,380円
4(赤松)	80,000	0	80,000	80,000	0	環境整備、親睦会 89,440円
5(長松)	80,000	0	80,000	65,682	14,318	クリーン作戦、親睦会 65,682円
6(塩谷)	180,000	0	180,000	130,677	49,323	町屋散策準備費 ほか 130,677円
<b>2 砂山地域事業</b>	<b>770,000</b>	<b>0</b>	<b>770,000</b>	<b>623,016</b>	<b>146,984</b>	
1お暮場クリーン作戦	100,000	0	100,000	99,232	768	混合油ほか 9,148円、参加者昼食費用 47,160円、参加者飲み物代 10,210円、保険 5,400円、チラシ用紙 1,458円、景品代ほか 25,856円
2 花いっぱい事業	170,000	0	170,000	161,268	8,732	芝桜苗・培養土・肥料等 113,632円、参加者飲み物代 16,291円、保険 3,600円、バックホー借上料 16,324円 ほか
3 地域連携事業	400,000	▲ 17,425	382,575	245,091	137,484	防災祖察研修(バス運行経費他)115,400円、非常用発電機111,140円、自主防災連絡会議1,920円、合同防災訓練 16,631円
4 小中学校との連携事業	100,000	17,425	117,425	117,425	0	・砂山小学校閉校記念事業への協力 87,425円 ・神林中学校開校記念事業への協力 30,000円
<b>3 研修費</b>	<b>20,000</b>	<b>0</b>	<b>20,000</b>	<b>9,070</b>	<b>10,930</b>	
1 ささえあいフォーラム	0	0	0	4,070	▲ 4,070	コピー用紙代
2 まちづくり活動推進研修	20,000	0	20,000	5,000	15,000	会場借上料
<b>4 組織運営経費</b>	<b>638,000</b>	<b>0</b>	<b>638,000</b>	<b>506,444</b>	<b>131,556</b>	
1 報償費	340,000	0	340,000	257,000	83,000	会長1名30,000円、副会長1名20,000円、監事2名4,000円、運営委員13名100,000円、代議員23,000円、検討部会員18人80,000円
2 会議費	25,000	10,000	35,000	27,312	7,688	費用弁償、お茶代等
3 事務費	50,000	▲ 10,000	40,000	38,182	1,818	ファイル、振込手数料、切手等
4 広報費	130,000	0	130,000	90,950	39,050	神林地区各まちづくり協議会の合体号 65,940円、砂山地域単独号2回、チラシ 25,010円
5 集落連絡費	93,000	0	93,000	93,000	0	牛屋、福田、北新保、長松、赤松各2人×3,000円×5集落=30,000円、塩谷21人×3,000円=63,000円
<b>5 予備費</b>	<b>9,000</b>	<b>0</b>	<b>9,000</b>	<b>0</b>	<b>9,000</b>	
1 予備費	9,000	0	9,000	0	9,000	
<b>合 計</b>	<b>2,057,000</b>	<b>0</b>	<b>2,057,000</b>	<b>1,694,889</b>	<b>362,111</b>	

※区分の予算支出に過不足が生じた場合は、運営委員会の承認により他の区分から流用することができるものとする。

[収入合計] 2,056,609円 - [支出合計] 1,694,889円 = 361,720円 (翌年度へ繰り越し)

## 令和元年度 監査報告書

規約第19条第1項の規定に基づき監査を実施したので、その結果を同条第2項の規定により次のとおり報告します。

### 第1 監査の対象

平成31年4月1日から令和2年3月31日までの会計年度を監査の対象とした。

### 第2 監査方法

事業報告書、収支決算書、通帳及び出納簿について、事務局が管理する証拠書類と照合するとともに、会長及び事務局から説明を聴取して監査した。

### 第3 監査期日

令和2年3月31日

### 第4 監査の結果

監査に付された事業報告書、収支決算書、通帳、出納簿及びその他添付書類について照合した結果、いずれも適正に処理されていると認めた。

令和2年3月31日

砂山地域まちづくり協議会

会長 瀬賀秀雄 様

監事

川崎 敏 

監事

岸 慶治 

議第2号

令和2年度事業計画（案）及び収支予算（案）について

令和2年度事業計画（案）及び収支予算（案）について、別紙案により承認を求めます。

令和2年4月1日 提 出

砂山地域まちづくり協議会 会 長 瀬 賀 秀 雄

## 令和2年度事業計画

区 分	事業名、取組項目	実施時期	対象・人員	取 組 内 容
地域の課題 解決、地域振 興及び住民 交流に関す ること。	(1) 集落町内会事業の取り組み			
	1 区民ふれあい 大会 (牛屋)	10月～11月 の日曜日	集落全体 160人	事業の目標：区民の健康を増進し、区民同士の親睦を深めることにより、集落の活性化を図る。競技に防災訓練の要素を取り入れ、気軽に楽しみながら区民の防災意識を高める。
				事業内容：午前の部・・・軽スポーツ（競技大会） 午後の部・・・カラオケ大会、懇親会
	2 収穫祭 (福田)	10月11日	集落全体 80人	事業の目標：集落の生産農家が年々減少しているため、生産農家と集落区民一緒になり、収穫を感謝し親睦を深めます。
				事業内容：餅つき大会、ちゃんこ鍋、給食会、綿あめ、紙相撲など
	3 活性化景観事 業 (北新保)	4月・11月	集落全体 50名	事業の目標：桜ライトアップとイルミネーションでの景観向上により、集落の活性化を図ります。
				事業内容：20年以上続けている観桜会の照明設備を更新することにより、景観向上と区民が楽しめる観桜会ができるように取り組む。
4 レクリエーシ ョンと懇談会 (赤 松)	9月	集落全体 50人	事業の目標：環境活動を通して、地域への関心と住民同士の交流を深めます。	
			事業内容：集落内のごみ拾いと公園の草取りを行い、その後に懇親会を実施し、地域住民の交流を図ります。	
5 支え合いの地 域・ボランティア 体験事業 (長松)	6月21日	集落全体 20人	事業の目標：ボランティア活動を体験し、集落の支え合いの意識を高める。	
			事業内容：集落で参加者を募り、「栗島クリーンアップ作戦」に参加し、ボランティア活動を体験します。(中止の場合は別事業とする。)	
6 塩谷元気事業 (塩谷)	4月～3月	集落全体 1. 300名 2. 100名 3. 300名	事業の目標：1. 塩谷海岸及び区民共同墓地を守り整備する。2. 七夕及び塞ノ神を老若男女、力を合わせ守る。3. 健康及び防災の意識向上と醸成を図る。	
			事業内容：1. 海岸整備 (5月実施)、墓地清掃 (7月実施) 2. 七夕・塞ノ神 (7月・1月) 3. 各種講座 (健康講座・防災講座) 年2回程度	

区 分	事業名、取組項目	実施時期	対象・人員	取 組 内 容
	(2) 砂山地域事業の取り組み			
	1 お幕場クリーン作戦	9月27日 (日)	砂山地域	お幕場クリーン作戦を継続し、砂山地域の大切な財産であるお幕場の美しい景観を守っていく取り組みを行う。
	2 花いっぱい事業	植栽日 5月17日 (日)		砂山地域の観光資源である大池に、冬以外の季節も地区内外から多くの人を訪れてもらえるよう、シバザクラの苗を植栽する。
	3 地域連携事業	通年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織等と連携して、地域防災活動を推進する。</li> <li>・集落支援員や神林地区生活支援協議体等と連携して、支え合いの地域づくりを推進する。</li> </ul>
	4 小中学校との連携事業	5月・10月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平林まちづくり協議会と連携し、新平林小学校の事業への協力を行う。(遠足・運動会)</li> <li>・神林中学校の事業への協力を行う。(ウォークラリー)</li> </ul>
	(3) 研修会の開催			
	1 まちづくり活動推進研修	2月	5地域合同運営委員等	小・中学校の統合により、地域間の連携を図っていくことを目的に、5地域合同による研修及び情報交換を行う。
	(4) 関係人口創出・拡大事業の取組			
	1 関係人口創出事業	10月下旬	実行委員会	道の駅「神林」を神林地区の拠点施設として位置づけ、実行委員会組織を立ち上げ、関係人口を増やす仕組みづくりを検討し、神林地区全体で取組を行う。
	(5) 神林地区敬老会への参画			
	1 神林地区敬老会への参画	6月20日 (土)	砂山地域対象者	敬老会参加者の支援を行う。

## 令和2年度 収支予算

### 収入

(単位：円)

区 分	本年度	前年度	比 較	説 明
1 地域まちづくり交付金	1,734,000	1,722,000	12,000	村上市からの交付金
2 繰越金	361,720	334,603	27,117	前年度繰越金
3 諸収入	280	397	▲ 117	預金利子等
合 計	2,096,000	2,057,000	39,000	

### 支出

(単位：円)

区 分	本年度	前年度	比 較	説 明
<b>1 地域振興交流経費</b>	<b>620,000</b>	<b>620,000</b>	<b>0</b>	
1(牛屋)	120,000	120,000	0	事業計画書のとおり
2(福田)	80,000	80,000	0	
3(北新保)	80,000	80,000	0	
4(赤松)	80,000	80,000	0	
5(長松)	80,000	80,000	0	
6(塩谷)	180,000	180,000	0	
<b>2 砂山地域事業経費</b>	<b>720,000</b>	<b>770,000</b>	<b>▲ 50,000</b>	
1お暮場クリーン作戦	100,000	100,000	0	清掃用具 30,000円、参加者昼食費用 40,000円、参加者飲み物代 15,000円、保険 5,000円、チラシ用紙 2,000円、その他3,000円
2 花いっぱい事業	170,000	170,000	0	芝桜苗・培養土・肥料等 130,000円、参加者飲み物代 15,000円、保険 5,000円、その他 20,000円
3 地域連携事業	400,000	400,000	0	地域防災活動の推進(自主防災連絡会議の開催、合同防災訓練、研修視察、防災備品の整備)
4 小中学校との連携事業	50,000	100,000	▲ 50,000	・新平林小学校事業への協力 40,000円 ・神林中学校事業への協力 10,000円
<b>3 研修事業経費</b>	<b>70,000</b>	<b>20,000</b>	<b>50,000</b>	
1 ささえあいフォーラム	10,000	0	10,000	神林地区生活支援協議体会議
2 まちづくり活動推進研修	10,000	20,000	▲ 10,000	講師謝礼等
3 関係人口創出・拡大事業	50,000	0	50,000	【新規事業】
<b>4 組織運営経費</b>	<b>613,000</b>	<b>638,000</b>	<b>▲ 25,000</b>	
1 報償費	300,000	340,000	▲ 40,000	会長1名30,000円、副会長1名20,000円、監事2名4,000円、運営委員13名155,000円、検討部会員18人91,000円
2 会議費	50,000	25,000	25,000	費用弁償、お茶代等
3 事務費	50,000	50,000	0	ファイル、振込手数料、封筒、切手等
4 広報費	120,000	130,000	▲ 10,000	神林地区各まちづくり協議会の合体号 86,000円、砂山地域単号2回 10,000円 ほか
5 集落連絡費	93,000	93,000	0	牛屋、福田、北新保、長松、赤松各2人×3,000円×5集落=30,000円、塩谷21人×3,000円=63,000円
<b>5 予備費</b>	<b>73,000</b>	<b>9,000</b>	<b>64,000</b>	
1 予備費	73,000	9,000	64,000	
合 計	2,096,000	2,057,000	39,000	

※区分の予算支出に過不足が生じた場合は、運営委員会の承認により他の区分から流用することができるものとする。

議第3号

砂山地域まちづくり協議会役員の承認について

砂山地域まちづくり協議会役員の選出について、規約第7条第2項の規定により次のとおり承認を求めます。

令和2年4月1日 提出

砂山地域まちづくり協議会 会長 瀬賀秀雄

【任期：1期\_2年（令和2年4月1日～令和4年3月31日まで）】

役職	新任者	前任者
会長	瀬賀秀雄	瀬賀秀雄
副会長	岸正浩	岸正浩
監事	遠藤和宏	川崎一敏
監事	高橋健造	岸慶治

(敬称略)



## 第3期

# 砂山地域まちづくり計画

【平成30年度～令和2年度】

みんなで話し合い、  
みんなで取り組み、  
支え合う集落・地域を目指して



平成30年4月

砂山地域まちづくり協議会

## 1 はじめに

村上市では、各地域が抱える課題の解消や地域の活性化を目指し、市民と行政が一体となった「市民協働のまちづくり」が取り組まれています。平成23年度末には、その推進組織として「地域まちづくり組織」（以下「まちづくり協議会」と表記）が、市内に17組織が設立されました。

各まちづくり協議会には、地域の担当として市職員が配置されており、地域住民と共に活動を行う人的支援と、地域まちづくり交付金による財政的支援を受け、地域の特色を活かした活動が展開されています。

砂山地域まちづくり協議会（以下「協議会」という。）は、砂山小学校区の6集落で構成され、平成23年3月に設立しました。協議会では、3年を1期としたまちづくり計画を策定し、計画に基づいた活動を実施しています。第1期（平成24～26年度）及び第2期（平成27～29年度）では、「みんなで話し合い、みんなで取り組み、ふれあう集落・地域を目指して」を基本方針に掲げ、各集落単位で実施する集落事業と砂山地域全体で実施する地域事業の2つを柱として「地域の元気づくり」に取り組んできました。

しかしながら、人口減少や少子高齢化の急速な進行により、地域コミュニティを取り巻く状況は厳しさを増しています。第3期まちづくり計画の策定に際し、協議会では砂山地域の現状を把握することを目的として、地域の中学生以上全員を対象とした住民アンケート調査を実施しました。このアンケート結果から見えてきた世代別・男女別の住民ニーズや地域課題を分析し、砂山地域の今後の姿を見据えながら、「第3期砂山地域まちづくり計画」（以下「第3期計画」という。）を策定します。

## 2 地域の現況と課題

### （1）地域の現況

#### ①地域の概要

砂山地域は、神林地区の西部に位置し、「お幕場」を中心とした広大な松林や「大池」、平成の名水百選に選ばれた清流「荒川」、その清流が流れ込む日本海など、美しい自然に恵まれた地域です。

ここに暮らす人は、地域に愛着を持ち、昔からの伝統行事や文化、町並みなどをこの地域の誇れる財産として継承してきました。

自然や伝統のほかにも、美味しい農産物や魚介類、それらを食材とした郷土料理、そして何よりもあたたかい人とのつながりがあります。

#### ②砂山地域6集落の特色

区が中心となり、住民同士のつながりをつくり、集落間の連携を図っています。防災、伝統文化、環境整備、公共施設の管理活動などを、集落内にある消防団や高齢者の団体・PTAなど各種団体と住民一人ひとりが協力し合って、より住みよい集落を目指して活動しています。

##### （ア）清流「荒川」に面した牛屋・福田集落

集落の南側の平成の名水「荒川」と面し、その堤防からは、平野に広がる田園を一望することができます。堤防には桜が植栽され、春は桜、夏は清流の輝き、秋には色合いが変わりゆく田園の風景が眺められ、一年を通してウォーキングなどを楽しむことができます。

また両集落では、毎年8月の祭礼時に獅子踊りが行われます。古くから引き継がれてきた伝統行事で、数か月前から準備に取り掛かり、集落全体で伝統の継承に取り組んでいます。

### (イ) 砂丘地に位置する北新保・長松・赤松集落

砂山地域の西側は、砂丘地が高台を形成しています。北新保・長松・赤松集落はこの砂丘地に位置しています。砂丘地の畑は、柔らかく糖度が高いやわはだねぎの産地として有名です。また「お幕場」を擁する広大な「お幕場森林公園」や白鳥の飛来する「大池」には大勢の人が訪れます。

### (ウ) 日本海に面する塩谷集落

塩谷集落は、北前船の寄港地として栄えた港町です。伝統的な妻入りの町屋は、歴史的な景観を感じさせます。毎年秋には、町屋散策のイベントに大勢の人が訪れます。町屋の他に御沢仏を納めた「円福寺」、新潟県で一番低い山「稻荷山」、塩谷大祭が行われる「塩竈神社」などたくさんの歴史的財産や自然景勝に恵まれた集落です。

#### ※砂山地域の三つの宝

##### ○日本の白砂青松百選「お幕場」

日本の白砂青松百選は、社団法人・日本の松の緑を守る会が選定した日本の美しい松原を伴った海岸のことです。江戸中期1700年代から江戸の終わり頃までの村上藩当時、お殿様の遊園・行楽の場所としてつくられたといわれています。一帯は松と白砂と苔の緑の景色だったということで、今もその面影を残しています。毎年5月に村上藩のあった頃を偲び、お幕場茶会が開かれています。

##### ○平成の名水百選「荒川」

「荒川」は、平成20年6月に環境省が発表した「平成の名水百選」に選ばれました。選定対象は中・下流域で関川村、村上市、胎内市に及びます。砂山地域の人達は、昔からこの名水の恵みを受けています。

##### ○お幕場森林公園・大池

塩谷から岩船までの海岸約3kmの間、国道345号線と海に挟まれた美しい赤松林が続いています。この一帯を「お幕場森林公園」と呼び、広さは83haにも及びます。公園内には遊歩道が整備され、大勢の方が散策に訪れています。この赤松林に囲まれた「大池」は、広さ約3haの砂丘湖です。ハクチョウの飛来地としても知られ、飛来数は年々増加し、今では1,000羽を超えるほどになっています。

### ③砂山地域の人口と世帯数

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年 (推計)
人口(人)	2,688	2,568	2,439	2,289	2,061	1,889
	← 20年間で23.3%減少 →					
0～14歳	455	382	322	277	206	137
	← 20年間で54.7%減少 →					
15歳～64歳 (生産人口)	1,608	1,484	1,386	1,294	1,136	991
	← 20年間で29.4%減少 →					
65歳～ (高齢者率)	625 23.25%	702 27.34%	731 29.97%	718 31.37%	719 34.89%	760 40.25%
	← 20年間で15.0%増加 →					
75歳～	242	296	378	441	426	423
世帯数(世帯)	656	654	648	659	645	

※2015年の高齢者率 新潟県平均:29.85% 全国平均:26.63%

砂山地域の人口は年々減少しており、1995年（平成7年）から2015年（平成27年）までの20年間の減少率は23.3%となっています。特に、2010年（平成22年）からの5年間では10.0%減少しており、人口減少が加速しています。

また、年少人口（15歳未満）及び生産年齢人口（15歳～64歳）が減少している一方、高齢者人口（65歳以上）は増加しており、少子高齢化が著しく進展しています。

## （２）地域の課題

砂山地域の抱える課題について、平成29年度に実施した住民アンケート調査の集計結果をまとめ、NPO法人都岐沙羅パートナーズセンターのご協力いただき、「砂山地域住民アンケート分析レポート ～結果から何が見えてくるか～」を作成し、世代別・男女別に整理しました。

以下、その概要を記載します。

砂山地域住民アンケート 配布数:1,918通、回収数:1,467通、回収率:76.5%（平成29年7月実施）

アンケート結果	ポイント
<b>回答者の属性</b>	
回答者の半数近くが60代以上。（若い世代は少数派） 農業従事者の87.5%が60代以上。	世代別に意見をまとめないと若い世代の声が埋没する。 将来的に農地の維持管理が課題となる。
<b>日常的な交通手段</b>	
80代になると車を運転する人の割合が減少 （70代→80代:男性▲33%、女性▲50%）	日常生活での移動が困難になる人が確実に増加。 移動の支援を考えていく必要がある。
<b>インターネットの利用割合</b>	
全体の半数以上(52.1%)がインターネットを利用 （40代以下は約9割、50代でも約8割） （大半がスマホ・携帯で利用している人でした。）	50代以下はインターネットでの情報伝達が効果的。 （回覧板は若い世代の人が見ないうちに回ってしまっていることがある。）
<b>地域活動への関心</b>	
「関心はあるが参加していない」(34.7%)が最も多く、10代男性(39.8%)、20代男性(39.3%)、40代女性(46.8%)は、神林地区の他地域と比較して最も高い割合でした。	「地域活動に参加していない＝関心がない」という訳ではない。→「余裕がない」という理由が多く、多様な関わり方を設けることで参加の可能性は十分あるのではないかと。
「関心はないし参加もしていない」という人は若い世代に多く、20代男性(39.3%)、20代女性(55.1%)、30代女性(26.5%)が特に多いという結果でした。	参加しない理由を深掘りしていくことが重要。 地域の中で少数になった若い人たちの声に真摯に耳を傾ける必要がある。
<b>女性・若者の声を反映する必要性</b>	
地域全体では半数以上が「必要」と考えており、40代～60代の男性は約7割が「必要」と答えています。	役員世代も中堅世代も、もっと女性・若者の声を反映すべきと考えている。 声を反映させる場や機会の充実が必要。

### 定住受入の必要性、他地域との交流の必要性

定住者の受け入れについては4割以上の人が「必要」と考えているが、「わからない」という人も1/3 他地域との交流の必要性については「必要」と「わからない」がほぼ同じ割合(1/3)	人口減少対策として他地域からの移住・定住者の受け入れが必要と考えている人もいるが、今ひとつ実感が無いという人も多い。 今後を考え、 <b>地域での十分な話し合いが必要。</b>
---	---

### この地域・集落に住み続けたいと思いますか？

砂山地域では「住み続けたい」と答えた人は56.4%で、 <b>神林地区5地域の中で最も低い割合</b> でした。 特に <b>10代～30代</b> が、男女とも他地域と比べて低い割合となっています。	10代と20代は「住み続けたい」が30%以下だが、「住み続けたいと思わない」が多い訳ではなく、「わからない」が一番多い。 <b>若者が住み続けたいと思う地域の姿を探る。</b>
---	---

### 自分の子供にもこの地域・集落に住んでほしいと思いますか？

地域全体では「住み続けてほしいと思う」が43.3%で、これも <b>神林地区の中で最も低い割合</b> でした。 特に <b>30代男女、40代男性</b> が他地域より低く、「思わない」という割合も高いという結果でした。	子育て中の親世代(30代～50代)の「住み続けてほしいと思う」割合が低く、親世代の考えが子に影響する可能性がある。 <b>このままだと人口減少(流出)はさらに進行する。</b>
--	---

### この地域・集落に愛着がありますか？

地域全体では「愛着がある」と答えた人は56.8%。 やはり <b>若い世代(10代～30代)</b> は、他地域に比べ「愛着がある」と答えた割合が低く、「愛着がない」と答えた割合が高い結果となりました。	砂山地域では、特に <b>若い世代の「地域離れ」</b> の傾向が進んでいる。 仕事があっても <b>地域に愛着がなければ、地域に残る人は減っていくのではない</b> か。
--	---

### 地域・集落内で誇りに思っているものは何ですか？(複数回答)

誇りに思う地域資源のトップ5は	砂山地域の素晴らしい <b>地域資源</b> (お幕場、大池、荒川、田園風景等)や <b>伝統行事</b> (獅子踊り、七夕、お神輿等)を大切に、盛り上げることが誇りになる。
①地域内の景観・自然環境 46.3%	一方、若い世代になるほど、誇りに思っているものが「無い」と答える割合も高くなり、 <b>世代間の意識の違い</b> にも目を向ける必要がある。
②地域内の諸行事(祭り、イベント等) 32.9%	
③地域内に暮らす人々 20.9%	
④地域内の助け合いなどの社会関係 16.4%	
⑤地域内の特産物(農林水産物、加工品等) 14.6%	

### 近所づきあいでの悩み(複数回答)

全体の6割近くが「 <b>悩みなし</b> 」と回答 40～60代は「忙しすぎる」という悩みが、80代は「 <b>仲間がほしい</b> 」という悩みの割合が高い傾向	人が減っているのに、役割・仕事量が変わらなければ <b>負担感が増すのは当然</b> 。 今後さらに人が減れば、回らなくなる。
---	--

### 日常生活で不安に感じていること・困っていること(複数回答)

不安・困りごとのトップ5は、		
①健康面への不安がある	18.7%	60・70・80代ではトップ。 →自分の健康について不安視している人が多い。
②災害への備えや避難	17.0%	すべての世代で上位にランクイン。 →地域共通の課題として認識されている。
③玄関先の雪のけなど冬季の除雪	14.8%	50代以降で上位にランクイン。 →年代があがるに伴い、困りごととして認識。
④コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	14.3%	10・30・40代、そして70・80代で上位に →30・40代は利便性を求めており、 10・70・80代は交通手段の確保が困難。
⑤医師や科が少ないなど、医療体制が不便	13.6%	幅広い世代でランクイン(40代では第2位)。

※要注意(全体の順位は高くないが、特定の世代では順位が高いもの)

⑧仲間と気軽に集まる場所がない	8.8%	10・20代で上位にランクイン(20代では第2位)。 →若者にとっては切実な問題であることを理解する。
⑪買い物・通院などの移動手段(交通手段)	7.2%	80代のみ上位にランクイン。 →少子高齢化が進むと、今後は更に増加する。

### 取り組みの満足度と重要度の評価

今後、重点的に取り組むべきテーマのトップ5は、	
①状況把握・持ち主との交渉など、空き家の管理活動	50代以上は圧倒的にこれが大切だという評価。 →今後も空き家は増える可能性が高い。
②避難訓練・連絡体制など、防災活動	30～60代は、この必要性を強く感じている。 →これまでの取り組みをさらに充実させる必要がある。
③買い物・通院など、移動支援活動	特に30～60代が、最も必要性を感じている。 →親や祖父母世代の移動支援を求めている。
④見回りなど、防犯・交通安全活動	30～60代は、この必要性を強く感じている。 →これまでの取り組みをさらに充実させる必要がある。
⑤婚活イベント・紹介など、結婚対策	70代以上が、この必要性を強く感じている。 →若い世代よりも、親・祖父母世代が心配している。

平成29年度に実施した前述の住民アンケート調査の分析結果からは、若い世代の地域離れの傾向が明らかとなり、また、日常生活の困りごとでは、買い物や通院、冬期の除雪、災害時の避難など、やはり少子高齢化の影響による課題が多く挙げられました。

### 3 砂山地域のまちづくりの基本方針、将来像

第1期及び第2期のまちづくり計画では、「砂山地域事業」と「集落町内会事業」の2つを柱に据えた取組みを行ってきました。「砂山地域事業」では、砂山地域の共通の財産として、お幕場、大池、荒川の3つを位置付け、それらに働きかける取組みを通して、地域に関心や愛着を持つこと、そして砂山地域住民としての一体感の醸成を目指しました。「集落町内会事業」では、集落活動をまちづくりの基本と捉え、集落の活動を支援することで、集落住民の絆を深めることや、地域の元気づくりを目指しました。

第3期まちづくり計画においても、この2つの取組みを継続し、これまでの課題を検証しながら、大勢の皆さんが主体的に参加していただけるような活動になるよう検討していきます。

また、今年度実施した住民アンケート調査により、砂山地域の世代別・男女別の意識の違いや課題を明確化することができました。このアンケート結果を多くの皆さんに知っていただき、地域の実情を話し合い、地域で活動する様々な組織や団体とも連携しながら、課題解決のための取組みを進めていきます。

#### (1) 基本方針

**みんなで話し合い、みんなで取組み、支え合う集落・地域を目指して**

砂山地域の目指す将来像を掲げる基本方針では、第1期及び第2期の基本方針であった「みんなで話し合い、みんなで取組み、ふれあう集落・地域を目指して」を踏襲しつつも、これからの3年間で更に進行することが予想される人口減少及び少子高齢化を見据え、住民一人ひとりがこれからも安心して暮らしていくために、みんなで支え合う集落・地域づくりを目指すことを基本方針とします。

#### (2) 目指すべき将来像

- ①砂山地域の財産を活かし、地域住民が憩い、他地域からも人が訪れる地域
- ②集落の伝統行事や文化が守られ、地域の誇りとして継承される地域
- ③災害への備えや避難体制が整備され、安心して暮らせる地域
- ④地域の課題をみんなで話し合い、人が減っても支え合いながら暮らせる地域

#### (3) 具体的な取組み

将来像	取組内容
①砂山地域の財産を活かし、地域住民が憩い、他地域からも人が訪れる地域	<b>◆花いっぱい事業</b> 第2期の取組みでは、砂山地域の共通の財産である大池を花で飾り、多くの方に砂山地域に訪れてもらうことと、植栽や管理作業を通して地域住民のつながりを深めることを目的として実施しました。しかし、第2期の3年間では、まだ花も少なく、冬以外の季節に多くの方が訪れる状況には至っていません。苗の植栽や草取り作業等に参加していただけるボランティアを募り、初期の目的を達成するため、やり方を工夫しながら第3期も継続して取り組んでいきます。

将来像	取組内容
	<p><b>◆お幕場クリーン作戦</b></p> <p>白砂青松の美しい松林を守っていくため、第2期の3年間にわたりお幕場でのクリーン作戦を実施しました。実施箇所は少しずつ白い砂地が広がり一定の成果が見られますし、恒例行事として定着してきました。「取組みを止めるとまた荒れてしまうので継続すべき」という意見が多かった半面、「せっかく立派にしても、訪れることが無ければ意義を感じられない人もいるのでは」という意見もありました。地域、集落、家族等でお幕場に親しむ機会を増やすこと等も検討しながら、第3期も取り組んでいきます。</p>
<p><b>②集落の伝統行事や文化が守られ、地域の誇りとして継承される地域</b></p>	<p><b>◆集落事業</b></p> <p>人口減少や少子高齢化が進み、地域を支える人材が不足する傾向になる中、伝統的な行事などの地域活動を続けることが困難になってきている集落もあります。また、集落の皆さんが一堂に会して顔を合わせる機会も少なくなり、地域住民同士のふれあいも以前より希薄になってきつつあります。社会生活の基本は「集落」であり、集落を元気にすることが、地域への愛着心を育むことにもつながるものと考えます。</p> <p>第2期では、各集落の様々な取組みに対して支援してきましたが、第3期でも、集落内での話し合いを更に深め、より一層集落が元気になるような取組みを検討していただき、集落単位で取り組む事業への支援を行います。</p>
<p><b>③災害への備えや避難体制が整備され、安心して暮らせる地域</b></p>	<p><b>◆地域防災活動（自主防災組織*1等との連携）</b></p> <p>住民アンケート結果を見ると、日常生活の不安や困りごとを回答していただく問いに対しては、「災害への備えや避難に関すること」が各年代層を通して非常に多く挙げられました（全体の17%、第2位）。また、これから重点的に取り組むべき項目について回答していただく問いでも、「避難訓練・連絡体制など、防災活動について」が第2位に挙げられました。</p> <p>神林地区では、毎年8月下旬に防災訓練が行われていますが、今回のアンケート結果を見ると、更に防災活動を充実させ、不安を解消する取組を進める必要があると思われます。</p> <p>地区内で防災活動に取り組んでいる区、自主防災組織、消防団等との連携を進め、災害発生時の不安を解消するような活動を検討してまいります。</p>

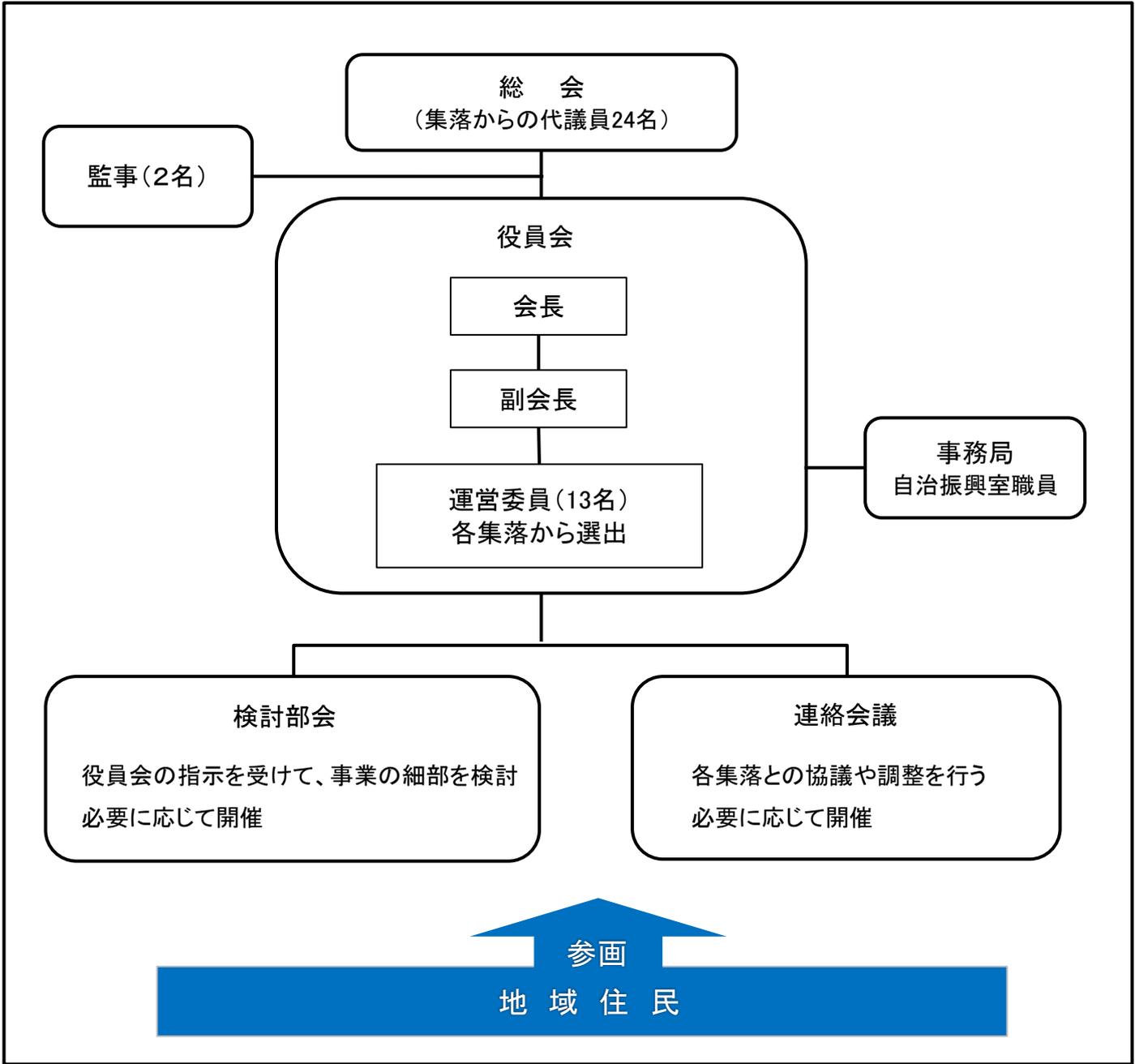
\*1 自主防災組織とは、地域住民が協力・連携し、災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ために活動することを目的に結成する組織であり、日頃から災害に備えた様々な取組みを実践するとともに、災害時には、災害による被害を最小限に食い止めるための活動を行います。

将来像	取組内容
<p>④地域の課題をみんなで話し合い、人が減っても支え合いながら暮らせる地域</p>	<p><b>◆支え合いの地域づくり（集落支援員*2、生活支援協議体*3 等との連携）</b></p> <p>住民アンケートの結果からは、「日常の買い物」「玄関先の雪のけ」「買い物・通院などの移動手段」といった、少子高齢化や人口減少に起因する日常生活での困りごとも多く出されました。今後、人口減少や少子高齢化は更に進行することが確実であり、将来を見据え、住民同士が支え合う地域づくりをしていく必要があります。</p> <p>砂山地域の6集落は、集落の規模や産業、年齢構成、人口減少率などに違いもあり、集落が抱えている課題も異なる部分もありますが、住民アンケートの結果等を活用して集落で暮らす皆さんが集落の現状と課題について見つめ直し、集落で活動する様々な団体が共通認識を持ってこれからの集落の姿を話し合いながら、地域でできることを考えていきます。</p>
	<p><b>◆敬老会の開催</b></p> <p>神林地区の敬老会は、公民館事業として実施していた頃からの伝統的な行事であり、毎年大勢の高齢者の皆さんにご参加いただいています。また、各集落の区長さん、お手伝いの皆さん、神林地区の保育園・小学校・中学校の皆さん、演芸団体の皆さんなどのご協力をいただき、世代間交流が図られています。支え合いの意識を育む事業としても位置付け、5地域の合同開催により継続して取り組んでまいります。</p>
	<p><b>◆研修会・ワークショップ等の開催</b></p> <p>各地の市町村では、これまでに経験したことのない少子高齢化と人口減少が進み、今後さらに進行することが予想され、その対応策が喫緊の課題となっています。</p> <p>砂山地域においても少子高齢化と人口減少は急速に進んでいます。住民アンケート調査から浮かび上がった地域の様々な課題に向き合い、各集落の役員の皆さんとまちづくり協議会が一緒になって地域の現状や他地区の取組みなどについて学び、これからも安心して暮らしていけるまちづくりを考えていくため、各種研修会やワークショップを開催いたします。</p>

\*2 集落支援員は、地方公共団体からの委嘱を受け、市町村職員と連携して集落点検の実施、集落のあり方に関する住民同士・住民と地方公共団体の話し合いに従事します。また、話し合いを通じて必要と認められる地域の実情に応じた集落の維持・活性化対策に取り組みます。

\*3 生活支援協議体は、高齢者人口の増加などにより、介護サービスの利用者UP→介護保険料UPが予想されることから、地域の支え合いによる生活支援や介護予防を考えていくことを目的に各地区で設置されています。神林地区では、5地域のまちづくり協議会、民生委員、NPO法人希楽々、社会福祉協議会、塩谷基地等の各団体代表者が構成メンバーになっています。

砂山地域まちづくり協議会組織構成



## 令和2年度 役員・代議員名簿

### 役員名簿

(敬称略)

集落	氏名	備考
牛屋	高木正雄	お幕場
牛屋	鈴木昌平	花
福田	田中重雄	お幕場
福田	田中正一	花
北新保	小田清	お幕場
北新保	村山真実	花
赤松	澤田雅人	花
赤松	川村大樹	お幕場
長松	岸正浩	
長松	小林正彦	花
塩谷	瀬賀秀雄	
塩谷	斎藤昌弘	花
塩谷	田村力栄	お幕場
塩谷	田村勝也	お幕場
塩谷	中原武志	花

### 監事名簿

(敬称略)

集落	氏名	備考
牛屋	遠藤和宏	
赤松	高橋健造	

### 代議員名簿

(敬称略)

集落	氏名	備考
牛屋	石田勉	お幕場
牛屋	遠藤和宏	花
牛屋	志田民雄	
牛屋	石田英博	
福田	須貝卓弥	
福田	田中裕太郎	花
福田	田中利彦	
福田	田中敏郎	お幕場
北新保	松村良平	お幕場
北新保	川崎一彦	花
北新保	川崎巳喜雄	
北新保	川崎一喜	
赤松	田島純	
赤松	小池歩	お幕場
赤松	小林文雄	花
長松	阿部辰也	お幕場
長松	小林和枝	花
塩谷	板垣昭平	お幕場
塩谷	佐藤文雄	花
塩谷	布施信彦	お幕場
塩谷	野澤恒久	花
塩谷	奈良橋和男	お幕場
塩谷	岸隆	花

## 砂山地域まちづくり協議会規約

平成24年3月9日制定

平成28年4月13日改正

### (目的)

第1条 本会は、砂山地域に暮らす住民が地域の個性や課題をお互いに話し合い、協力して取り組むことで、住みやすい地域を形成していくことを目的とする。

### (名称)

第2条 本会は、砂山地域まちづくり協議会（以下「協議会」という。）と称する。

### (事務所及び所在地)

第3条 本会の事務所は、村上市役所神林支所地域振興課自治振興室に置く。また、本会の所在地は、事務所の所在地と同じ村上市岩船駅前56番地に置く。

### (事業)

第4条 本会は、第1条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 地域の課題解決、地域振興及び住民交流に関すること。
- (2) 健康及び福祉の増進に関すること。
- (3) 安全及び安心に関すること。
- (4) 環境の保全及び改善に関すること。
- (5) 地域資源の有効活用に関すること。
- (6) 地域の産業振興に関すること。
- (7) その他、まちづくりに関し、特に必要なこと。

### (構成)

第5条 本会は、砂山地域に居住する人及び砂山地域で事業を実施する個人若しくは法人又は砂山地域で活動する各種団体（以下「構成員」という。）をもって構成する。

### (代議員及び役員を選出)

第6条 本会は、集落区長（以下「区長」という。）から別表1のとおり代議員及び役員を選出を受ける。ただし、別表1の人数には、できる限り区長を含むものとする。

### (役員)

第7条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 1名
- (3) 監事 2名
- (4) 運営委員 13名

2 会長、副会長及び監事は、役員会において選出し、総会の承認を得る。運営委員は役員として区長から選出された者で会長、副会長以外の者があたる。

(役員職務)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故その他やむをえない事情により職務を遂行できないときは、その職務を代行する。
- 3 監事は、本会の事業及び会計の執行状況を監査し、総会に報告する。
- 4 運営委員は、本会の運営について審議する。

(役員任期)

第9条 役員任期は、2年とする。ただし、再任は妨げない。

- 2 補欠により選出された役員任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 役員は、任期終了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行う。

(代議員)

第10条 代議員は、通常総会及び臨時総会において役員会が提案する議題を審議し、議決する。

- 2 代議員任期は1年とする。ただし、再任は妨げない。
- 3 補欠により選出された代議員任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、役員会及び連絡会議とする。

(総会)

第12条 総会は、構成員で参会した者及び代議員をもって構成する最高の議決機関であり、本規約に定める事項のほか、本会の目的を達成するために必要な事項を審議決定する。

- 2 総会は、通常総会及び臨時総会とし、会長が招集する。
- 3 通常総会は、毎年度1回開催し、臨時総会は、会長が必要と認めたとき、又は、代議員の3分の1以上の請求があった場合に開催するものとする。
- 4 総会の議長は、総会において代議員のうちから選出する。
- 5 総会は、役員及び代議員のそれぞれ2分の1以上の出席により成立するものとする。
- 6 総会の議事は、代議員の過半数で議決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 7 総会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
  - (1) 地域まちづくり計画の策定及び変更に関すること。
  - (2) 規約の制定及び改正に関すること。
  - (3) 会長、副会長及び監事の承認に関すること。
  - (4) 事業計画、事業報告、予算及び決算に関すること。
  - (5) その他、重要事項に関すること。

(総会議事録)

第13条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
  - (2) 代議員出席者数、参会構成員数及び役員出席者数
  - (3) 開催目的、審議事項及び議決事項
  - (4) 議事の経過の概要及びその結果
  - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録は、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名押印し、事務所に備え付けておかなければならない。

(役員会)

第14条 役員会は、総会に付議する事項及び本会の運営に関する事項を審議、決定する。

- 2 役員会は、会長、副会長及び運営委員をもって構成し、会長が必要に応じ招集し、議長となる。
- 3 役員会は、役員会を構成する者の2分の1以上の出席により成立するものとする。
- 4 協議会に、事業実施のための検討部会を設置することができる。検討部会の会務は、役員会で別に定める。

(連絡会議)

第15条 連絡会議は、事業について各集落と、必要な事項を協議することを目的とし、会長が必要に応じ招集できるものとする。

- 2 連絡会議の構成は、事業に応じて役員会で決定し、会長が議長となる。
- 3 連絡会議は、参集依頼した構成員の2分の1以上の出席により成立するものとする。

(事務局)

第16条 本会の円滑な運営及び事業実施に資するため、事務局を置く。

- 2 事務局は、神林支所地域振興課自治振興室に置く。
- 3 事務局は、会務及び会計を掌握する。

(会計)

第17条 本会の運営等に係る経費は、地域まちづくり交付金、補助金、委託料及びその他収入をもって充てる。

- 2 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第18条 本会の事業計画及び収支予算は、役員会の承認を得た後、総会の議決を得なければならない。

(監査)

第19条 会長は、事業年度終了後、事業報告書、収支決算書及び基金台帳を作成して監事に提出し、その監査を受けなければならない。

- 2 監事は、前項の書類を受領したときは、これを監査し、監査報告書を作成して会長に報告するとともに、会長はその監査報告書を総会に提出しなければならない。

(書類及び帳簿の備付け)

第20条 本会の事務所には、本会の事業実施に係る書類、収入及び支出に関する証拠書類並びに帳簿等活動に関する全ての書類を備え付け、公開するものとする。

(その他)

第21条 この規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、会長が役員会に諮り、別に定める。

#### 附 則

この規約は、平成24年3月9日から施行する。

改正後の規約は、平成25年4月9日から施行する。

改正後の規約は、平成29年4月1日から施行する。

別表1 (第6条関係)

集 落	代議員として選出する人数	役員として選出する人数
牛屋	4名	2名
福田	4名	2名
北新保	4名	2名
長松	2名	2名
赤松	3名	2名
塩谷	6名	5名
合計	23名	15名